

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490900018		
法人名	社会福祉法人 積善会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	豊後高田市呉崎775番地10		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年6月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の食事作りや、外出行事、趣味や特技を生かし、入居者の要望に沿った支援が出来る体制にある。自分らしさを出して、心豊かな暮らしができるように、個人を大切に支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員のアイデアや特技が、事業所内での利用者の経験や力を発揮する場や地域色を活かした外出支援・生活支援に繋がっている。
 ・食事やおやつを喫茶・レストラン・屋外食・バイキングなど様々な形で演出し、食事が喜びや楽しみとなる環境づくりを行っている。
 ・利用者の在宅時の生活習慣や希望を活かした入浴時間の設定により、快適な入浴支援が行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し、職員の名札にも記載している。具体的なケアについて会議で意見交換し共有してその人らしく生活できるよう繋げている。	母体法人の理念と共に、事業所開設時に事業所独自の「利用者のその人らしさ」に視点を置いた理念を作成し、実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校・地域の行事に参加している。老人クラブ主催のグランドゴルフに参加し交流を深めている。	管理者が、地域に積極的に働きかけ、学校の運動会や老人クラブの行事に参加している。運動会には、全利用者が参加し、競技に参加した利用者の活躍が、地域・利用者間の交流に繋がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への認知症の知識の普及又は面会時家族への助言に努めている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の説明を行い会議にて提案された意見を参考に実践に繋げている。	運営推進会議は2か月に1度開かれ、事業所報告や、様々な質疑応答が行われている。議事録は詳細に記録され全家族に報告されている。次回からは利用者の出席を企画している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	住民健診を受けに行ったり、運営推進会議を通じて市町村の行事の情報を提供して頂いている。	地区の公民館で行われている豊後高田市の「住民健診」を利用して、利用者の健康管理に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の思いに寄り添いながら見守り、職員で連携とり安全面に配慮している。	居室では、転倒リスクのある利用者にはセンサーマットを利用して、見守りを行っている。学びの場として、母体法人の研修会を活用している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において学び、自己を振り返えながら日々のケアに取り組んでいる。	/	/

事業者名: グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネが契約時に重要事項説明書にそって一項目ずつ説明を行いご理解いただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様の要望や苦情を伺うようにしている。意見箱を設置し、アンケート実施して意見を反映している。	年に2回の家族会を実施している。家族アンケートを行い、結果は広報誌上で報告され、利用者支援や事業所運営へ活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや会議で職員のきづいたことや、意見が自由に言える場をもち質の向上に努めている。	毎月開かれる職員会議では、職員の気づきや提案が話し合われ、利用者支援や運営に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持って働けるように職場環境に配慮がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加しケアの質の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分老協所属のGH研修に参加し取り組んでいる内容等意見交換し交流をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族が入居に対して不安を感じている時は、要望を十分に聞き不安の軽減を図り信頼関係を築いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネがサービス導入までの経過についてゆっくり聞いている。ご家族様が不安に思っていることを把握し、要望に答えられるように対応信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様の思い状況等を十分に確認しながら、改善に向けた支援の提案や、必要なサービスに繋がれるように対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々は、人生の先輩であるという考えを職員は共有しながら信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の日々の様子や暮らしの出来事や気付きを報告し、情報の共有に努めている。ご家族様に対応方針を報告しながら納得して頂ける支援を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の友人や知人、親戚等定期的に面会に来られる。	利用者の希望で、家族や友人との交流を図ったり、家族の協力を得ながら外出支援につなげる取り組みを行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った入居者同士が自由に過ごせるよう居場所や雰囲気作りに努めている。又コミュニケーションをとることが難しい利用者に対しては、回想法等を使いコミュニケーションをとりやすい環境を作っている。		

事業者名: グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院をされた方がいたが定期的にお見舞いに行き様子を伺った。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。介護計画書立案時、再度本人・ご家族様の要望・意向を確認あいている。	利用者や家族の思いの聞き取りの中で、理念に表された「その人らしさ」の把握に努め、工夫されたアセスメントシートに丁寧に記入されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴・個性や価値観などの情報を伝えてもらい職員全員が共有出来るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護計画表を各勤務者がチェックし現状を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様には日頃の関わりの中で思いや希望・要望を聞き反映できるように心掛けています。会議にて職員全員で意見交換を行い共有を図っている。	利用者の職歴や経験を活かし、利用者・家族の希望や状況に沿った介護計画が作成されている。定期的にモニタリング・見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に介護計画の評価や見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況を踏まえ通院など必要な支援を行っている。		

事業者名: グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ各関係者から地域資源を聞きは把握を行っている。又地域の方にGHを知って頂き協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族様の希望に応じ必要な医療関係に受診を行っている。ご家族様の付き添いが出来ない時は職員が付き添いを行う。	利用者・家族の希望するかかりつけ医での受診が行われている。受診は家族対応を基本としているが、状況に応じ、職員で対応し、受診後は、家族・職員間の情報の共有が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり急変時等支援を受けいられる体制をとっている。又日頃より連携を図りご利用者の健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院中職員はGHにて生活が継続出来るように定期的に面会を行い入院中の生活状況が把握できるように対応している。又早期の退院が出来るようにご家族様の意向を含め入院先の医療機関との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では、重度化や終末期に向けた対応方針を作成してないが早い段階で作成し実施していく。	契約時に、重度化や終末期の希望を確認し、記録として残している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥の吸引、タッピング方法、外傷等の応急処置は対応できるように研修を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署の市道で非常防衛災害訓練を行っている。又運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼している。	年に2回の避難訓練が行われ、避難扉は、利用者に解りやすいよう大きく掲示されている。地域の消防団にも災害時の協力依頼を行っている。食料の備蓄は行われていない。	利用者の状況に対応した、災害や非常時の食料や飲料水などの備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報の漏洩防止に努め個々の情報は一冊のファイルに閉じ外部者の目に触れないように管理している。又排泄時の声掛けの際には耳元で行う等の配慮をしている。	日常の関わりの中で、親しい関係を保ちながら、居室訪問や生活支援時には、利用者の人格に配慮した言葉掛けや対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で行きたい場所や食べたい物等を聞き取り日頃の活動に生かしている。物事を行う際には必ずご利用様に説明して目的を知って頂き希望等聞いて納得して頂き対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその日の体調や気持ちを尊重し、その人のペースで生活して頂けるよう支援している。食事・入浴回数や時間の希望も取り入れその人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する衣類は基本的に本人に選んで頂いている。又レクリエーションの一環としてエステを取り入れたり、本人の希望に添いメイクを実施している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と一緒に作っている。季節や天候の良い日は、庭で屋外食したり、入居者様と一緒にテーブル囲みレストランや喫茶を開き美味しく楽しい雰囲気作りを大切にしている。	毎食の献立は、母体法人で立てられているが、利用者の希望や嗜好に合わせて、内容を変更し、手作りの食事が作られている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声掛けや見守りをして楽しく会話しながら摂取されている。一人一人の水分・食事摂取量の把握をして状態観察し、食事量の少ない時は個別に本人の好きな物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じて声掛けや見守りを行い、毎食後口腔ケアを行い、義歯の清掃等必要な支援をしている。		

事業者名: グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の行動や仕草を敏感に察し、さりげない声掛けにてトイレ誘導を行っている。利用者にあった排泄パターンを把握し排泄物品を使用している。	利用者全員がトイレでの排泄を行っている。入院時おむつ利用者が、退院後、身体状況の確認や排泄パターンの把握により、布パンツ利用に改善された事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供・腹部マッサージ・散歩等促し運動を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き状況に合わせて対応し、脱衣所の温度等にも気を付け利用者が快適に入浴できるよう配慮している。	全利用者が、週2～3回の入浴をしている。利用者から出された、「在宅時の夕方の入浴習慣」の希望を取り入れ、夕食後の入浴支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中なるべく活動していただき、夜間安眠できるように繋げている。又夜間なかなか寝付かれない場合等は温かい飲み物を提供したり利用者の訴えに傾聴するように心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態変化がある場合は、詳細な記録と報告を徹底している。職員が薬の把握できるようにファイルに保管している。薬の準備・服薬前は、二人以上の職員で確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の体調等考慮し、大工・絵画・料理等本人の興味あるものに参加して頂き、他入居者と作業されたり会話したり気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各自お誕生日には事前に、本人ご家族様の要望を聞き取り墓参りや空港見学・温泉等出かけられる。又季節を感じて頂くよう外出も頻繁に行っている。	日常的に犬の散歩やゴミ捨てなどで、屋外へ出かける機会を持ち、利用者の希望や気候を考慮した柔軟な個別・集団の外出支援が行われている。	

事業者名: グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の所持は、本人の安心・満足を感じて頂くために、ご家族の協力を得て少額のお金を持参している人もいます。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族の方に、本人が書いた手紙や絵を送付している。希望に応じて日常的に電話をされている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活感や季節感を感じて頂けるように掲示物も工夫をし家庭的な雰囲気作りに努めている。</p>	<p>共有空間には事業所行事や利用者の日常の様子が写された写真が掲示され、利用者や職員が会話を楽しみながら居心地良く過ごすことのできる環境づくりが行われている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにソファを置きゆっくりとくつろげるようにしている。又季節を感じていただけるように畳を敷き、コタツを設置している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の家具や寝具等は自宅で使ったものを置き安心して生活できるようにしている。</p>	<p>各居室入口には、担当職員の写真が貼られ、居室内は、換気や加湿器の利用により臭気・乾燥対策が行われ、清潔に保たれている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの身体状況に合わせて、物の配置に気を付けたり、危険防止のため環境整備に努めている。</p>		